

2001年(平成13年) 浅間山の活動について (月別活動状況一覧表)

項目	月												合計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
噴火回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
地震回数	A点	41	128	162	182	20	11	115	36	99	113	144	80	1131
	B点	374	527	828	903	137	63	398	183	309	526	776	400	5424
	C点	323	456	697	767	107	52	348	147	253	406	583	300	4439
	D点	17	36	58	56	10	6	54	28	(8)	34	109	16	(432)
	E点	85	230	364	410	36	25	311	(33)	(168)	414	715	182	(2973)
微動回数	A点	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	B点	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	C点	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	D点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	E点	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
噴煙量	5μm以上	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	1~5μm	0	0	1	0	0	1	4	0	0	2	1	0	9
	1μm未満	41	127	161	182	20	10	111	36	99	111	143	80	1121
噴煙量	5(多量)以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4(やや多量)	1	1	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	6
	3(中量)	14	9	11	16	13	12	4	3	4	7	9	0	102
	2(少量)以下	11	14	14	11	10	9	15	15	14	20	17	23	173
噴煙高度	1200m以上	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	600~1200m	1	0	5	4	5	6	1	0	0	2	1	0	25
	300~600m	7	6	7	13	12	7	12	7	7	11	11	2	102
	300m未満	18	18	15	10	6	8	7	11	11	14	14	21	153

火山活動概要 浅間山は1990年の微噴火以降、2001年中も噴火・爆発は発生せず、また被害を引き起

こすような活動もなく経過しました。地震活動においては、2月から4月に一時的に活発となる活動が観測されたほか、10月、11月に地震がやや多い状態でした。噴煙活動については、期間の大半で噴煙量の多い状態が観測され、とくに1月から7月上旬を中心にやや活発な状態でした。10月の火口現地観測では、火口底内で新しい噴気孔が確認されるなど、前年までに比べて火口内の活動状況はやや活発になっていました。

地震活動 2月中旬から3月初めにかけてと、3月下旬から4月中旬にかけて、一時的な地震急増が周期的に繰り返される活動が観測されました。月合計回数も2月527回、3月828回、4月903回とやや多い状態が続きました。このうち日別回数では4月10日に177回、2月19日に156回、3月24日に148回など、100回以上となる日も6日間ありましたが、この期間に規模の大きい地震の発生はなく、いずれも1日ないし2日間程度で少ない状態に戻りました。このほか、7月中旬と10月後半から11月にかけて日別回数が20回前後から多いときは50回前後で継続するやや活発な状態が観測されました。月合計回数も10月526回、11月776回とやや多くなりましたが、2月から4月のような急な変化は観測されませんでした。

地震の規模については、2月3日にM1.7、10月18日にM1.8の浅間山としては規模の大きい地震が2回観測された以外は、規模の小さいものがほとんどで、震度1以上を観測する地震の発生も年間をとおしてありませんでした。

火山性微動は、10月24日に1回観測されましたが、震動継続時間は短く振幅も小さいものでした。火山性微動が観測されたのは、1999年9月5日以来でした。

噴煙活動 噴煙量の多い状態が1月から7月上旬および9月下旬から11月に観測され、1998年から2000年にかけての噴煙量が少なかった期間に比べると2001年の噴煙活動はやや活発でした。とくに1月から7月上旬にかけては、噴煙量4(やや多量)が6回観測され、噴煙の高さも5月17日に火口上1200m、4月28日に火口上1000mとやや高い状態が観測されました。

現地観測 火口現地観測(10月16日)では、山頂火口内に新たな噴気孔の出現や、火口底での噴煙地帯の拡大、噴気活動による変色域の拡大などが確認されました(前回の観測は2000年10月)。噴煙地帯の地表温度の最高は142(前回103)で、温度の上昇も確認されるなど、火口内の活動状況は2000年までに比べてやや活発な状態が観測されました。

浅間山山麓周辺の湧水観測では、各点ともpHや水温の観測データに大きな変化は認められませんでした。